

「高校生論文コンテスト 2024」講評

論文テーマ【SDGs で協調する社会—私たちの提案・実践—】

応募論文の多くが SDGs に関わる提案であったが、提案と実践の両方を満たす次の 3 論文が授賞対象として選考された。

■学長賞

草場 美海さん（渋谷教育学園幕張高等学校 2 年）

「布ナプキンは生理の貧困の解決に活かせるのか」

本論文は、世界では「生理の貧困」に直面する女性が相当数に達していること、貧困によって必要量の生理用品が購入できないことによる健康被害や感染症の危険だけでなく、女性にとって就学機会やキャリア形成に関わる障害にもなっていること、さらに、生理に関する教育の不振から社会的な偏見が横行し、それが被害をさらに助長していることを文献調査から明らかにしている。その上で、執筆者自身が使用してきた布ナプキンの普及がひとつの解決策になるのではないかという、自らの経験を踏まえた提案の有効性をフィリピンに赴いて実際に検証している。検証の様子も平易で説得力のある説明がなされており、まさに本コンテストのテーマを十分に体現している充実した内容である点が高く評価された。

■優秀賞（五十音順）

金指 沙絵さん（横浜共立学園高等学校 2 年）

「STOP 児童労働（発展途上国の子供の児童労働と教育問題解決への探求）」

本論文には、執筆者が高校生模擬国連大会に参加したことでカンボジアの教育問題に興味を持ち、児童労働の現状を調べた結果にショックを受け、改善策を探るうちにカシューナッツの製造工場に行き着くまでの経緯が時系列で綴られている。JICA の支援事業で現地に設立された工場が製品の供給を可能にしたことでフェアトレードが実現し、貧困が改善して児童労働が解消したことを絵本によるストーリーとして取りまとめ、母校の小学校を訪ねて児童労働の現状とフェアトレードの重要性を訴えている。執筆者の中で児童労働の問題が時間を追うに従って主体的に捉えられていくが、それを可能にしている感受性や、そこから自分ができることを具体化して実践に結びつける企画力が高く評価された。

小松 凌大さん、水野 陽向さん、薬師神 杏美さん（愛媛県立宇和島東高等学校 3 年）

「地域のコメの消費量 up を目指して」

本論文は、米飯食を、栄養摂取のための主食としてだけでなく、人々の健康や地域の景観を保持・保全する上でも重要な手段として捉えて、コメについて地元や県内の消費実態を調査するとともに、需要拡大の可能性を探っている。そのため、学校給食、自校の生徒・教職員、県内の食品スーパーを対象に調査を実施した結果、学校給食の対象を高校生に広げていくことや、食品スーパーでは相対的に購買力の弱い 20～40 歳台を標的とした販売戦略を講じることで、消費量の増加が見込めると結論づけている。同時に、学校給食が地元のコメを利用していることや、自校の生徒・教職員の相当数が縁故米を調達していることから、コメの地産地消が実現し、景観の保全に役立っていると指摘している。手間のかかる調査を地道に実施して結論を導いている点が高く評価された。